

会津若松市総合計画審議会（第4回）議事要旨

- 1 日時 平成28年4月27日（水）14時～15時30分
- 2 場所 ルネッサンス中の島
- 3 出席者 委員 12名
オブザーバー 3名
事務局：企画調整課長、企画調整課職員 3名

（次第）

- 1 開会
- 2 議事
 - （1）第7次総合計画基本構想（案）について
 - （2）第7次総合計画基本計画【総論】（案）について
 - （3）会津若松市総合計画審議会部会の編成について
- 3 閉会

▼開会（進行：事務局員）

▼議事（進行 会長）

- （1）第7次総合計画基本構想（案）について
（別紙資料に基づき事務局より説明）

（主な質疑）

【委員】

本市の労働人口に対する考えと、家事労働について触れる必要があるのではないか。

【事務局】

本市の労働人口については流出が続いているのが実情である。そのため活力を維持するためにも「しごと」が必要であると考えている。家事については、様々な考え方があろうと思う。「家事」を仕事とされている方もいるので、大きく仕事として捉えていければと考えている。

【委員】

「しごと」につなげていくのなら、現役で働いている労働力人口は触れる必要があると思う。

【事務局】

検討する。

【委員】

プロローグはどのような内容になるのか。

【事務局】

基本計画の5つの柱と、潮流認識を記載する内容になると考えている。

【委員】

是非「継承」というキーワードを使っただきたい。仕事には継承する人がいないと永続性が保てない。子どもたちが大人になったら、こういう仕事をしたいと思えることが、後の労働人口になっていくという流れを入れることはできないか。

【委員】

スローガンの「温故創しん」には注釈をつけないと分かりにくい。

【委員】

『公共施設、行政サービスの最適化』で、効率化を図る記載があるが、過度の効率化には弊害の側面もあるのではないか。

【委員】

第6次総合計画と違うところはどこか。

【事務局】

基本構想については、第6次総合計画とは全体的に構成を変えている。第7次総合計画については、基本構想として貫かれているビジョンやコンセプトを全面的に出していく考え方で、市民目線での構成、シンプルな構成にしていきたい。

【委員】

どう違うかは、これから我々が審議していく中でつくっていくことになると思う。

(2) 第7次総合計画基本計画【総論】（案）について

（別紙資料に基づき事務局より説明）

【委員】

「会津地方の中心都市として」という表現があるが、人口については本市の人口を論じるだけでなく、会津地方の他地域のデータも検証する必要もあるのではないか。

【事務局】

他地域についても踏まえる必要はあるとは思う。計画をまとめる段階で、様々な施策にデータを示していきたい。

【委員】

人口の捉え方について、これまでの長期総合計画では人口増加を掲げてきた。これからは人口減少社会を迎えていくのは明白であり、次期計画での人口の捉え方は実態を反映しており良いと思う。

【委員】

「生涯を通じて多様な経験や価値観を身につけながら、主体的にまちづくりに参加することが必要である」という記載があるが、市民が自発的に地域に参加することが大切である。具体的にはどのような施策を考えているのか。

【事務局】

行政に関心を持っていただくことが非常に大事だと考えており、今回の計画を策定するに当たっても様々な市民の皆様からご意見を伺っている。また、自治基本条例を現在検討しており、市民がまちづくりに参加できる仕組みを条例に規定していきたい。

【委員】

市民がまちづくりに参加できる「場」をつくっていただきたい。

また、バイオマスについては日本で最初の例であり、残材だけでなく熱利用も行っているのだから、そういうところも表現できないか。観光についてはインバウンド対策として、「サムライシティ」のような分かりやすい施策を入れることはできないか。

【委員】

会津大学短期大学の福祉健康分野の取組は素晴らしい。高齢化の時代には健康福祉に関する人材育成は重要になってくる。

【事務局】

今のご指摘は重要なことだと考えている。そこで「福祉や子育てなど、市民生活の安心、安全を担う人材について、地域の教育機関や企業等と連携を図りながら、その確保、育成を進めます」と表現させてもらっている。短期大学部については、子育て、福祉といった分野で連携を強化していきたい。

【委員】

人口については、難しいとは思いますが市の中で元気で働いている市民の皆さんが、これだけいるという指標を示すことができないか。人口減少を抑制していくという表現よりも、このくらい元気な人達がまちにいるという捉え方で、その後の施策につなげていくという方が流れとしては前向きで良いのではないか。

【事務局】

人口の維持に関する記載の中に加えられないか検討する。

【オブザーバー】

「伝統・文化の継承」については、子どもの頃から接することが大事だと思う。また、「担い手が不足する中で、生産規模の縮小が見られています」というところで文章が終わっているが、次につながるような前向きな表現にすべきではないか。

【事務局】

検討する。

【オブザーバー】

基本構想の中で大きな指針として「スマートシティ会津若松」という言葉があるが、基本計画の中にはスマートシティという言葉は特に見受けられない。「スマートシティ会津若松として」のような文言を入れた方が整合性がつくのではないかと思う。

また、全体として言葉のレベルの統一を図っていただきたい。

【事務局】

「スマートシティ会津若松」の考え方については、計画全体に貫かれているコンセプトであり、全部に含まれていると考えている。

言葉のレベルの統一については、整理させていただく。

【委員】

施策4の公共交通のキーワードは、これから高齢者が増えていく中で重要なキーワードになる。会津若松は車社会だが、これからは自転車が使用しやすい町にする必要があるのではないかと考えている。そのような町にすることで自転車が趣味の方も観光に訪れるような街になるのではないかと思う。

【委員】

自転車の利用について、市内は狭いこともありなかなか定着しない。狭くて歩道も満足に作れない状況にある。

【委員】

これからは視点を変えて道路整備も行う必要があると思う。

【オブザーバー】

感想になるが二地域居住について、自分の体験から行政の取組みが上手くいってないように思う。

【事務局】

二地域居住については、あいづ創生市民会議等の市民意見をお伺いする場でも同様の指摘があった。これについては行政の中でも関係課でワークショップなどを活用し、検討をしたことがある。まちづくりモデルプランの中でなんらかの方策を示せればと考えている。

【委員】

これからは都市間競争になる。「会津若松だから行ってみよう、住んでみよう」と思わせるコンセプトを持つ事が大事になるだろう。

【委員】

「ボランティア等と情報を共有しながら、様々な防災・減災の取り組みが図られるよう体制づくりを行ってきたところである」ということだが、「情報」とはどのような内容を想定しているのか。

【事務局】

1つには地域防災計画の中で考えられている「情報」といった視点がある。また、もう1点として、例えば要支援、要介護者、要支援が必要な方に対する情報といった視点もある。表現がわかりにくいので、文言を整理していく。

【委員】

「災害発生時、あるいは発生後における業務継続のあり方などについても確立する」という記載があるが、業務継続のあり方というのは当然、必要な考えではないか。

【事務局】

震災や災害、インフルエンザなどに対応するため業務継続計画を策定する企業や自治体が多くなってきていることから記載した。

【委員】

基本計画に掲載してある全体の体系図だが、これは全体を一番イメージしやすい図である。掲載する場所を見直した方が良い。

【事務局】

掲載場所を検討したい。

(3) 会津若松市総合計画審議会部会の編成について

※次回からの2つの部会に分かれて検討する事、部会の編成について説明。

部会編成について異論があれば平成28年5月10日まで事務局に申し出るよう説明。各委員了承

▼閉会（事務局）